

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会における状況

関連するWebサイト等への複数のサイバー攻撃が認知されたものの、**大会運営に支障をきたすような事象は発生しなかった**

期間中の取組

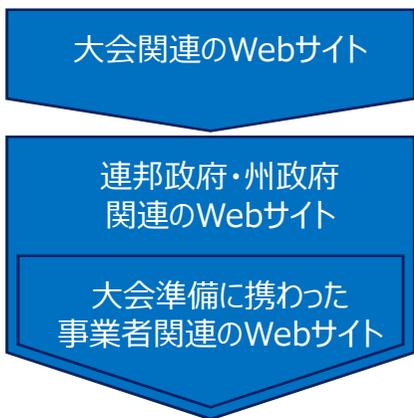
リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「リオ組織委」という。）技術運用センターにNISC職員2名を連携要員として派遣。情報セキュリティ責任者（CISO）との緊密な連携により状況を把握するとともに、NISC、情報セキュリティ関係組織等において認知した関連脅威情報を提供。



リオ組織委における状況

- ✓ 公式及び多くの関連Webサイトに対する多くのDDoS攻撃やWebアプリケーションへの攻撃試行を認知。一部のWebサイトからの情報窃取等が発生。
 - 開会当初は大会関連Webサイトを標的とした攻撃が多く確認されたが、徐々に攻撃の対象が周辺のWebサイトへと移行。
 - 認知した攻撃の多くは、SNS等にて攻撃の予告や実施の書き込みが確認された。
 - オリンピック開会直後に攻撃のピークを迎えたが、事前の対策、演習等の備えにより迅速に対処し大きな問題は発生しなかった。

<大会開会後の攻撃対象の遷移>



- ✓ 大会公式Webサイト
- ✓ ブラジルオリンピック委員会・
ブラジルパラリンピック委員会のWebサイト 等
- ✓ 連邦政府の大会特設Webサイト
- ✓ 連邦スポーツ省、リオ州・リオ市のWebサイト 等
- ✓ オリンピック会場の建設事業者のWebサイト 等

<リオ組織委 技術運用センター内の様子>



本取組及び今後のブラジル政府からの聴取による知見は東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるサイバーセキュリティ確保のための取組に反映・応用